旭ヶ丘小

関わり合いながら　深く考える子の育成

～対話的な授業づくりを通して～

（２年計画の１年次）

校長名　　中奥　尚子

１　研究主題について

⑴　主題設定の理由

本校は教育目標を「生き生きと　心も体もたくましく」と定め、子どもの明るい声が響き、学力・思いやりの心・体力・生活力を確実に育てる学校を目指している。教育目標、これまでの研究経過と、「主体的・対話的で深い学び」という授業改善の視点を踏まえ、研究主題を「関わり合いながら　深く考える子の育成」と設定した。

昨年度は「対話」を子ども同士の話合いだけではなく、自分の思考の過程を問い直す「自己内対話」、教材と向き合い、解釈しながら粘り強く取り組む「教材との対話」と捉え、「深く考える」ことに結びつく授業の在り方を探った。今年度はこれまで推進してきた問題解決的な学習の「問いの共有」を「思考のズレ」と重ね合わせ、授業の導入をより重点化した。「～しよう」という課せられた問題ではなく、「～はどうすればよいか」などといった、児童の思考を表した学習問題を意識し、授業研究・個人研修を通して研究のさらなる推進に努めた。

⑵　これまでの研究内容の推移

ア　令和２年度の実践研究の成果から

感染症対応の授業の中でも、対話を「自己内対話」「教材との対話」と捉え、自分の考えを再構築する授業を構成することによって、深い学びにつなげることができた。また、振り返りの観点をはっきりさせ、「まとめ」と区別することよって、子どもたちが自分の学びを振り返り、理解を深めたり、計画・調整して次の自分の学びにつなげたりする様子が見られるようになってきた。また、アンガーマネジメント研修やQ-Uの分析を一般研修として盛り込み、全校で取り組んだことによって、子どもたち同士の関係づくり、学級づくり、学習の中での認め合いにつながった。

イ　令和２年度の課題から

対話を含め、子どもたちの考えをより深めるための教師の関わりや課題設定、見通しのもたせ方について、今後の授業研究の中でより明らかにしていく必要がある。また、１人１台端末の活用など、ＩＣＴの授業での活用や、情報を活用して主体的に学習を進めていくための資質・能力を身に付けさせるための研修をさらに推進していく必要がある。

２　研究のねらい

問題や他者との関わりの中で子どもたちが思考し、学びを深めるための授業の在り方や指導方法について授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

児童の追究意欲を喚起する課題を設定し、対話を通して解決しようと取り組ませることにより、深く思考する力を伸ばすことができると考える。

４　研究内容

⑴　研究仮説を検証するための視点について授業の中で実践する。

ア　視点１：子どもたちの解いてみたいという願いと教科・教材の目標を踏まえた学習課題になっているか。

イ　視点２：思考力・判断力・表現力につながる言語活動を意識した授業になっているか。

ウ　視点３：対話による子どもたちの思考の過程を大切にする授業の流れになっているか。

エ　視点４：子どもたちが身に付いたと実感できる振り返りの場を設定しているか。

⑵　学習課題の吟味・焦点化を図ることで、主体的に課題を解決する学習の充実を目指す。

⑶　個人研修による授業公開を推進する。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・講師・授業の概要
7	5	教育指導課・センター訪問（計画訪問）授業研究（要請訪問） ２年　乙山百恵　体育「マットを使った運動遊び」　講師：教育指導課　主任指導主事　竹井　亮　氏 コースを選択し、様々な動きを試す活動を通して、挑戦したい運動を考えて選ぶ授業
10	5	個人研修４年（初任者研修）花田杏野　国語「ごんぎつね」叙述をもとにごんと兵十の心の距離を考える授業
10	27	個人研修５年　久田麻子　特別活動「５の１オリンピックをしよう」学級目標達成のための工夫について話し合う授業
10	28	個人研修３年　井畑英夫　社会科「店ではたらく人」消費者の願いに合わせた販売者の工夫について理解する授業
11	5	授業研究５年（録画・視聴）　福田陽奈　道徳科「本当の自由とは」　講師：桔梗野小学校　校長　吉田　朝子　氏 ２つの「自由」の捉え方を比較し、話し合う活動を通して、自由に伴う自立や責任について考える授業
11	8	個人研修１年　下野由佳子 国語「じどう車くらべ」提示された絵と文章を結びつけ、意味段落を捉える授業
11	11	個人研修３年　竹高のどか 外国語活動「This is for you.」必要な表現を用いて持っているカードを尋ね合う授業
11	15	個人研修１年　髙橋園生　算数「かたちづくり」シルエットに当てはまる形と並べ方を探り、形について捉える授業
11	17	要請訪問４年　下村亘　社会科「ひなん所シミュレーション」　講師：教育指導課　主任指導主事　大野　勉　氏 避難所運営の疑似体験を通して、多様な人への理解を深め、自助・共助の意識を高める授業
11	26	個人研修２年　南舘尚子　算数「かけ算」同じ数のまとまりに着目し、かけ算を用いて数を求める授業
12	8	個人研修のぞみ学級　長尾康子　自立活動「気持ちをうまく伝えるためには」 いろいろな言い方を試す中で、正しく気持ちを伝えるために言葉が必要なことを考える授業
12	9	個人研修専科　佐々木新樹　理科「電気とわたしたちのくらし」 電熱線の実験を通して、電気の熱変換など、多様な利用について考える授業
12	10	個人研修かがやき学級　熊谷恵美子　国語「冬の言葉」冬に関する言葉を集めたり、文章を作ったりする授業
12	16	個人研修６年　市村徳子　社会科「世界に歩みだした日本」不平等条約改正に向けた日本の姿勢について考える授業

(2) 一般研修

月	日	研　修　内　容・講　師
5	27	個別の指導計画の作成：本校　教諭　長尾　康子
6	2	１人１台端末活用①：本校　教諭　下村　亘、市村　徳子
8	20	体育科　体力向上を意識した体育科授業：長者小学校　校長　島浦　靖　氏
8	23	１人１台端末活用②：是川小学校　教諭　佐々木　俊介　氏
9	2	Q-U の理解と活用：弘前大学教職大学院　准教授　吉原　寛　氏
9	22	アンガーマネジメント・ソーシャルスキルトレーニング：本校　校長　中奥　尚子
12	15	１人１台端末活用③：八戸市総合教育センター　主任指導主事　石井　一二三　氏

６　研究の成果

(1)「問いの共有～自力試行～学び合い～振り返り」というプロセスを共通理解し、授業研究・個人研修によって多様な教科・領域の中で問題解決的な学習を進めることで、本校の目指す「関わり合いながら深く考える子の育成」に迫ることができた。特に、「自己内対話」「教材との対話」を進めるため、「思考のズレ」を起こすような学習問題の設定を全校で意識して進めることができた。そのことが子どもたちの追究意欲につながり、思考しようとする態度、考えの変容を自覚した振り返りに表れるようになった。

(2) １人１台端末についての研修を重点的に行うことによって、ストリームや Jamboard の活用など、学年の発達段階に応じた日常的な活用がなされるようになった。

７　研究の課題

(1) 子どもたち一人一人の考えを引き出し、考えを再構築させるための発問や問い返しの仕方など、対話を進めていくための教師の役割について継続して検討していく必要がある。

(2) １人１台端末の活用など、どうすればＩＣＴを効果的に使用できるのか、教師が授業の中で活用方法を選択・判断し、資質・能力を身に付けさせるための研修をさらに推進していく必要がある。

（記入者　下村　亘）